

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070800220		
法人名	たくみ株式会社		
事業所名	グループホーム ベルジ洪川たやの家		
所在地	群馬県渋川市半田宮西3075		
自己評価作成日	平成29年8月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成29年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活の中で入居様が発せられる言葉や行動を常に心に留め思いを大切にし、人として尊厳を守り信頼を得ながら穏やかに日々を過ごして頂けるよう努めています。入居様との繋がりを大切にすなかみ、季節の行事や外出行事など地域の方とのふれあいを通して、たやの家での生活が「楽しい」と思っていただけよう支援しています。ご入居様・ご家族様・関係者の皆様にも安心感が得られるグループホーム、選ばれる施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念にある「人としての尊厳があり信頼し合える家」を具現化するために、入居時には利用者のこだわりの品や事柄を聞きそれを継続できるよう、日々の過ごし方においてはマンネリ化しないように、うどん打ちをしたり、好きな花に水をあげたり、好物のものを買いに出かけたりできるようにしている。その基本として、事業所都合を優先することなく、利用者本位である対応や声かけを考えるよう職員に指導している。入職時には、「ノート」を活用して、その日の振り返りを行うとともに、疑問や不安を管理者に伝えられるようになっており、レベルにあわせたマニュアルによりステップアップできるようにしている。また、職員が意見を言えるよう毎月の会議の他に全体会議を開催し、そうしたなか、職員の提案をうけて、家族や地域の方々を招いた食事を開催することを検討するなど、地域の方が気軽に立ち寄れるような事業所を目指し取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	渋川たやの家の基本理念を毎日朝礼時に唱和して、職員全員で共有している。	理念を毎朝唱和し、職員の名札の裏に理念を記載して、意識づけを図っている。今年度は、理念のなかの「信頼」をテーマにして、実現にむけて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会長様や民生委員様をはじめ地域の方々の情報を得ながら地元行事への参加を積極的に行っている。	地区の文化祭に利用者の作品を出展したり、事業所の文化祭に地域の方を招いたりして、地域の方への理解と交流を図っている。地域の道路清掃の時間帯には参加できなくても事業所前の清掃をしたり、事業所前の販売機に来る方に積極的に挨拶をしたりして、日常的な交流にむけて努力している。	これまでの地域との交流をさらに発展させ、地域の方が気軽に訪問し利用者が地域とつながりながら生活できるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度も『RUN伴+ぐんま』へ参加し活動の場を拓いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2か月に1回(年間6回)開催し、意見交換や施設への要望をいただき運営に活かしている。	会議は、「感染症について」などのテーマを決めて事業所の取り組みを伝えることで、理解と意見や質問が出しやすいようにしている。利用者や面会に来ている家族に、状況に応じて参加依頼を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービス内容や介護保険等の不明な点を担当者に確認したり、市役所まで出向き助言や指導を受けてサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の介護保険課には、運営に関する事や人員配置など不明な点について確認したり、必要な報告を行ったりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一般家庭の玄関的な取り扱いをしている。安全面での配慮や防犯上やむを得ない場合も含め、中止の方策を検証している。	法人の年間計画による研修や講師を招いた事業所内研修のなかで、身体拘束への理解に努めている。管理者は、そうしたなかで、利用者本位の姿勢を重視して、スピーチロックなど言葉遣いや対応などについて職員へ指導している。ユニットからの出入り口・玄関は、安全を考慮し施錠している。	利用者の安全を確保しつつ、抑圧感のない生活・地域の方が気軽に訪れる環境作りなどについて話し合う機会づくりを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し知識を深めている。ユニット会議や委員会活動のなかで、意見交換などを行って虐待防止への意識向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連グループ内研修で研修の機会を設けている。必要性のある利用者様については、地域包括支援センターや社会福祉協議会とも連携を図りながら活用できるよう支援		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や退居時にはご家族様に不明な点が残らないよう、話し合い十分な説明を行うことをご理解・ご納得していただけるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や連絡の際には、意見を伺うようにしている。ご意見やご要望があった際には会議等で話し合って改善に努めている。相談窓口責任者や行政機関等の苦情受付先を文章で明記し、意見箱を設置している。	意見箱を設置している。家族からの要望も「意見」と捉えて、いただいた意見は朝礼時や夜勤職員が出社した際に伝えている。家族の誤解をもとに、家族への報告の仕方(伝え方)について研修を行い、改善にむけて取り組んだ事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議や、毎日の業務の中で職員の意見や提案を聞き反映させている。	ユニット会議などの他、職員の風通しをよくするために、月1回全体会議を行うようにした。現在、職員の提案をうけて、外部との交流を目的とした食事会の開催を検討している。新入職員には、その日の振り返りができる「ノート」の活用により、管理者に疑問などが伝えられるしくみがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な会議や、随時報告を行ったり起案書を上げている。事業所への訪問も行って、状況把握を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修など資格取得に向けた補助や研修受講の機会を設けたりと、職員の状況に合わせた取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、各研修に参加して情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際しては事前に、ご本人様・ご家族様と面談する機会を設けて事前に話し合いを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応ができるか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人様やご家族様の思いや状況等を確認し改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念にもある、『人としての尊厳があり信頼し合える家』を理解し、尊敬の念を持って支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の援助がふさわしいと思われる場合には協力をお願いしている。また、日々の生活の中でご本人様の思いを伝えるなど、協力していただきながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の際には、ご家族でゆっくり話ができるよう支援させていただいている。知人や友人等に訪問してもらったり、電話や手紙での連絡を取り持ち、交流が継続できるよう取り組んでいる。	職員は、はがきの投函を一緒にし、利用者と友人との「はがき」のやりとりを継続できるようにしている。事情があり友人や知人との交流は難しい状況であるが、これまで培ってきた得意なことであるうどん打ち・折り紙、好きな花を育てることなどが継続できるような機会づくりをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。同じ趣味の仲間とレクリエーションが楽しめるよう環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族様より連絡をいただいたり、立ち寄っていただくなど交流がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の希望や意向を尊重し、個人援助対応に取り組んでいる。食べ物やレクリエーション、1日の過ごし方に個別援助に取り組んでいる。	言葉で表現できない利用者の思いは、家族から生活歴やできることなどの情報提供を受けて、本人本位に検討している。入居時には、生活のなかで大切にすることわりものや事柄などを聞き、それを大切にできるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談の機会を作り、生活歴や趣味嗜好等お聞きして情報収集を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分で行えることはして頂き、日常生活がリハビリと考え、出来るが多くなるように援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の情報を踏まえ、ご本人様・ご家族様の意向を確認しながら、職員及び関係者様と話し合って介護計画を作成している。	今年度のテーマである信頼につなげるため、状況変化などを早急に報告し、家族の意見聴取をして、担当者会議を経て、介護計画を作成している。毎月1回ユニット会議で月の変化から本人本位に検討し、モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活面の様子や、体調面の変化・ご本人様の訴えを記録に残し、情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診介助・買い物・退院の迎えなど、本人や家族の要望に応じて臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等を活用し、情報の収集に努めている。文化祭参加も継続し出展する作品作りを入居者様と実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人様・ご家族様の希望を尊重している。協力医療機関での主治医の往診が週1回と状態変化の際には随時電話にて相談を行っている。	入居時に、事業所の協力医による往診と、それ以外の受診は家族対応であることの説明を行い、選択していただいている。看護師の職員による健康管理とオンコール対応、家族による受診の場合に体調変化があった場合には、状況や聞きたいことなどのメモを渡し医療へとつなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護職がおり、入居者様の健康管理や処置を行っている。不在時にも電話にて相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関・主治医に定期的に連携を取り、ご家族様も含めて話し合いを行って早期に退院できるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や重度化に対して、ホームの指針をご家族様に話している。職員には朝礼時や会議時に個別対応として連絡している。	重度化した場合や終末期の支援は行わず、その方針は入居時とその後の状況変化に応じて説明し、状況によって法人の関連施設を紹介している。緊急時の対応は、フローチャートを作成して間違いなく行えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各研修へ参加し取り組みを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火・避難訓練を実施したり、備蓄している非常食を試食も兼ねた防災訓練を行っている。地域の協力体制については運営推進会議で協力を求めている。	年2回、消防署の指導のもと、昼夜を想定して避難訓練を実施している。毎月避難訓練は行っており、日頃から火の元になるようなものが発生しないようにコンセントなどの清掃などに気をつけ、あらゆる災害に備えマニュアルづくりを始めている。地域への災害時に備えた呼びかけや体制づくりには至っていない。	あらゆる災害に備え、地域との相互の協力体制づくりを視野に入れた、理解や支援を得るための働きかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を守り、言葉がけに注意している。各居室内でプライバシーに配慮した個別援助を実施している。	利用者や家族はお客様であるという考えで、節度を守り丁寧な対応に努めている。そうしたなか、どのような状況であっても「利用者本位」であることを忘れずに、自分がされたらどうか、家族がいても同様の対応をするかという視点で、日々の支援にあたるように指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の言葉や表情を伺い、入居者様に選んでいただく機会をつくっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、その日の天候や体調・希望に応じて、柔軟に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択する楽しみを継続するため出来る限り選んでいただいている。訪問美容のサービスもあり、身だしなみを整える機会を設けている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の状態に応じて食事形態を変更している。また、行事等を企画してお好きなものや季節の物を食べる機会を作っている。	関連施設の栄養士が献立をたて、職員が提供している。誕生会には好きなものを提供したり、うどん打ちをしたり、献立の変更は可能であり、栄養士の訪問により要望を伝えることができる。利用者がおしぼりをまるめたりできることに関わってもらえるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連施設の栄養士が献立を作り、バランスの良い食事を提供している。摂取量は日々記録して情報を共有し支援に活かしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、おひとりお一人の状態に合わせた口腔ケアの支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常生活の観察から排泄パターンや排泄サインを把握し気持ちよく排泄ができるように努めている。オムツ着用はご本人様にとって不快であるという認識のもとトイレでの排泄に取り組んでいる。	排尿・排便チェック表をもとに、定時の誘導の他、落ち着きがないなどのしぐさからトイレ誘導を行っている。排泄に限らず機能維持のためリハビリを行い、できるだけトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因などが理解できるよう職員に伝え、入居者様の状態を考慮しながら、運動や食事を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施している。入浴を嫌がる方には声掛けのタイミングを変えたり、時間をずらすなど状況に応じた対応を行っている。	週に2回入浴を行っている。利用者の入浴に対するシャンプーなどのこだわりがあれば、そのように実施する姿勢ではあるが、特にそのような要望はなく、要望をうけて同性介助を行っている。以前に行っていた風呂の日(26日)の温泉を使った足湯を、再開したいと考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況に合わせて休息の時間を設けている。夜間眠れない方にはお茶を提供したり、付き添って気持ちを穏やかにして眠りにつけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診や受診時に状態を報告し、処方通り服薬管理を行っている。職員は、服薬の目的や副作用などを理解しての対応を心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや掃除など、個々の生活歴や残存機能に応じた役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩をはじめ、ドライブなどの外出やご家族様にも協力をお願いし外出の機会が保てるよう支援している。	利用者が「散歩に行った」と外に出たことを刺激に感じてもらえるように、外気にあたることを大切にしている。庭先に出たり、近隣を散歩したり、月に1回程度いちご狩りや法人施設へ外食に出かけたり、外出に取り組んでいる。今年度は、法人の他のグループホームの祭りに出かけ、交流を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常は買い物など必要に応じて、立替にて対応させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて対応している。手紙のやりとりでは、近所のコンビニまで一緒に投函したり、取次ぎをして支援させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム周辺に植木が植えてあり、玄関先にはテーブルとイスが設置してある。ホール内には行事の様子やレクで作成した作品などを飾っている。	大きく日付けを掲示し、ユニットごとに利用者と職員でつくった作品などを飾っている。また、ユニット入口には、作品を展示するスペースを用意している。動いている職員は暑く感じてしまうので、職員ではなくて、利用者が過ごしやすい温度管理に注意を払っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には、テーブルやソファを設置し居室以外でも自由に過ごせる環境を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様・ご家族様には居室への持ち込みは自由であることを伝えている。馴染みのある物があることで安心した生活が送れるよう支援している。	安心して過ごせるように使い慣れたものを持参していただけるように説明し、机や枕・家族の写真などが持ち込まれている。居室入口には、ユニットごとに工夫をして利用者にあわせて名前や写真などを掲示して、わかるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様本位で、出来ること・分かることの情報共有し、入居者様に合った支援に取り組んでいる。		